

任意団体 ウータン・森と生活を考える会

# インドネシアにおける地域住民を巻き込んだ熱帯泥炭地保全と再生及び日本での啓発活動を通じた気候変動対策

ひろげる助成

2年目

実践

植林地域の広さ **7ha**

学習会・講演会の参加者 **300人**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **70%**



## 活動内容と成果

●スンガイ・ブトゥリ地区でNGOや地域住民へのヒアリングを行い、課題等が網羅できた ●クブラヤ県にて熱帯泥炭地保全の先進事例を視察した ●タンジュン・プティン地区にて、村の青年団主体の7haの植林を支援した ●学習会と講演会を5回行い、合計300人が参加した ●日本の熱帯林NGO12団体と幅広い層への啓発に向けたメッセージを発信、共通のウェブサイトを完成させた ●6生協を対象に調査、生協及び小売店への提言に向けた材料を得た ●啓発ツールの映像「森の守り人～イサムの場合～」が完成した



## 課題

インドネシアのボルネオ島等に広がる熱帯泥炭地は開発や森林火災で莫大な温室効果ガスを排出する。保全と再生対策を可及的速やかに行うと共に啓発活動を進める必要がある。

## 目標

熱帯泥炭地の特性・開発問題・保全再生対策等の調査や先進地視察を行い、NGO・地域住民と共に熱帯泥炭地保全・再生策を実施し、同時に日本の消費者や企業等へ啓発する。



今後の展望

インドネシアでは熱帯泥炭地保全の現状が把握でき、今後の戦略づくりにいかす。地域住民主体の熱帯泥炭地再生が進み出し、引き続き支援する。日本では熱帯林NGOのネットワークを生かして、幅広い啓発を進める。

## 苦勞した点と工夫した点

### ■苦勞した点

持続可能なパーム油利用について小売店等に聞いたが、たえ生協であってもあまり反応がなかった。

### ■工夫した点

まずは熱帯林NGO共通での取組みを模索した。生協の実地調査で、自主的に商品取扱いの配慮・発信をしている店舗がわかった。

活動地域  インドネシア

〒530-0015  
大阪府大阪市北区中崎西1-6-36  
サクラビル新館308「関西市民連合」内  
E-mail : contact-hutan@hutangroup.org  
http://hutangroup.org/

